

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400211		
法人名	株式会社ハピネライフケア		
事業所名	認知症対応型 グループホーム すいせん渡橋		
所在地	島根県出雲市渡橋町304-1		
自己評価作成日	H28年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3290400211-00&PrefCd=32&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成28年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様と職員が一緒に過ごせる時間を多くとるようにし、ゆったりした気分で生活できるようにしている。主治医のクリニックや総合病院、消防署などがすぐ近くにあり、医療面や緊急時にも迅速に対応できる立地である。</p> <p>条件付きではあるが、看取りも行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームすいせん渡橋は、併設して小規模多機能事業所やわらぎ渡橋、デイサービス、住宅型有料老人ホームがあり、施設間で交流もあります。利用者は高齢化や重度化が進んでいますが、職員の声かけ、会話に対して穏やかな表情がみられます。また、若年性認知症の方もおられ職員の決め細やかな支援で安心して生活をされています。運営母体の新体制から2年目となり、管理者、職員も安定され、利用者本位のサービスが提供されています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達で理念を作り、朝礼時に唱和しているが共有できていない部分もある。	ホーム理念を朝礼時に唱和している。理念を共有出来ていない部分もあるが接遇委員会で理念を共有できるよう努められている。笑顔や挨拶がより良く出来るよう日々実践されている。	職員の理解を深め、今後も継続して行かれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にボランティアで来ていただき、交流を図っている。 また、公民館活動への参加も行った。	自治会に参加されており、地域の清掃活動に職員が参加され交流を図られている。また、四路公民館の掃除も職員が参加され交流を図られている。地域のボランティアの方が来られ、利用者や手品等で交流されています。ハピネ出雲として祭りを開催され、地域の方にお越し頂き、地域との交流が深まるよう努めている。	今後、子どもかけこみ110番に登録するなど、子ども達が安心して生活できる取組を行い、地域とのつながりを深められても良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あれば、随時受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、報告を行っている。 意見等あれば適時サービスに取り入れている。	2ヶ月に1回小規模と合同で開催されています。市の担当者、地域包括、家族代表、民生委員が参加され利用者の状況、行事等の報告が行われます。地域の方より連絡事項や意見等を頂き話し合われています。頂いた意見、要望は職員会議で検討されサービスに活かされます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、随時、連絡を取り合っている。 運営推進会議にも毎回参加して頂いている。	出雲市の担当者、地域包括の方にも毎回運営推進会議に参加頂いています。市の担当者の方と連絡、相談は随時行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解は出来つつあるが、完璧ではない。 知識の向上が必要である。	身体拘束ゼロの研修に参加されホーム内で伝達講習を行い理解が深まってきている。スピーチロックにも気をつけ実践をされている。身体拘束がどうしても必要な場合家族の同意を頂き、記録も残されており、短期間で見直しもされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加している職員が増えている。研修報告会を開き、全職員が同じ意識で取り組む様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなく、理解している職員はまだ少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかり説明を行い、疑問点など無いようにしている。 また、疑問や不安点はその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族も参加して頂いている。意見あれば運営に取り入れている。 意見箱の設置をしているが投書された事はない。	家族の面会時に意見要望を聞いている。遠方の方はプラン見直し時やハピネ通信でお知らせし意見要望を聞いている。運営推進会議で頂いた家族代表からの意見・要望も職員会議で話し合われサービスに取り入れられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際に意見など伝え、役職者会議などの際に、代表者に届けている。 月1回の職員会議で出た意見を随時、業務に取り入れている。	月1回の職員会議や利用者カンファレンス時に業務改善等意見を話し合わせ、業務に活かされている。管理者は月1回の役職会議で代表者に意見・要望を聞いて頂く機会が設けられている。また、代表者がホームに視察にいられた際にも現状の様子等を聞いてもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人で目標を上げ、それを意識し業務に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	数は多くないが、外部研修に参加する職員が増えて来ている。また、研修委員を選出し、内部研修の計画、実施を行い全職員に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は、ほとんど無いためこれから増やして行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細やかに話し、カンファレンスを行い本人の希望に添えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく家族の意見も尊重し、良好な関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々なサービスや支援の方法を提案、説明を行い柔軟に対応できている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力、ご本人の残存能力を活かし利用者本位のペースに合わせるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診の際にはなるべく家族にも同行して頂き、家族と協力しながら援助する関係ができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや友人宅に外泊するなど一部できている利用者もいる。	家族と墓参りに行かれる方や友人宅に外泊される方もある。今後も馴染みの場所や関係が継続できるよう支援が行われます。かかりつけ医受診時に家族と外食される方もおられるが高齢の方が多くなり馴染みの人や場所の継続支援が難しくなっている。訪問理美容の職員さんと馴染みの人になってきている方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などを考え利用者同士、輪が出来やすい様子を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あれば随時受けており支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者の持っている目標に対して、達成できる様を持っていく声掛けを行っている。	家族やカンファレンス等で思いや意向を把握している。困難な方は表情などから汲み取っている。プランの目標から支援、声かけを行い達成出来るよう実践しています。暮らし方を見直し、看取りの方が普通車椅子で移動が困難となり、リクライニング式車椅子での対応に切り替えたりされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書やカンファレンスなどを通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かく記録し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際に家族や主治医の意見も取り入れプラン作成に反映させている。	カンファレンス時に本人、家族、かかりつけ医の意見要望を取り入れたプラン作成や見直しが行われています。モニタリングは月1回、評価、見直しは3ヶ月に1回行われおり、必要時にはプラン変更されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく記録し、見直しの際に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外の事はほとんど、できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなかできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する内科が掛かりつけ医になっており家族にも納得が得られている。2週間毎に往診に来られる。特変時には随時、受診往診が出来る体制を取っている。	かかりつけ医は本人、家族の同意で全員の方が、協力医遠藤クリニックとなっています。2週間に1回の往診に来られ、状態変化時等、随時の往診も行われます。他科受診は家族が同行受診されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変や異常などあれば随時看護師に連絡をし処置や受診等できる連絡体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は病院関係者との情報交換に努めている。 また、時々病院にも訪れ直接相談等行い、関係にも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りを希望している方が1名おられ家族やDriに変化があれば随時連絡を入れている。緊急時にはすぐに来ていただくようお願いしている。 また、看取りの内部研修も行っており職員も終末期の在り方を学んでいる。	入所時に重度化や終末期の方針を説明されています。看取りの方が1名おられ、変化があれば家族やかかりつけ医に随時連絡を取り対応されています。看護師中心に看取りの内部研修を行い終末期の在り方の支援に取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての内部研修を行った。 今後定期的に行う事により実践力を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。マニュアル類も運営推進会議の際に見いただき、意見があれば取り入れている。	小規模、デイサービス、有料老人ホーム併設3施設と合同で定期的に避難訓練を実施されています。運営推進会議で熊本地震を基に震災マニュアルについての意見交換され、震災マニュアルの強化が行われました。利用者共、熊本地震を基に地震の恐ろしさや被災者の方のこと、対応等話し合われました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報をご家族に書類にて許可を得ている。声掛けに関しては外部や内部の接遇研修等で適切な声掛けや対応ができています。特にトイレや入浴時など羞恥心には気を付けている。	外部や内部の接遇研修を行い人格の尊重、プライバシー保護について学ぶ機会が設けられており、適切な声かけや対応ができています。排泄、入浴支援では特に配慮したケアが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫し、本人の思いを引き出せる様にできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えない時もあり、職員側のペースになる事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはなるべく一緒に選ぶ様にしている。できない方は同じ服にならない様職員が注意して選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や台拭きに関しては出来る方にはしていただいている。行事レクの際にはお菓子作りを手伝っていただいた。また6月末の夏祭りには野菜切りやお菓子作りなど手伝っていただく予定。	食事はセントラルキッチン委託で、ご飯、味噌汁はホームで作られます。出来る方には下膳や台拭きをお願いされます。行事レクのお菓子作り、6月末の夏祭りに野菜切り、お菓子作りを手伝われ楽しめました。見守りや食事介助のため職員は利用者と一緒に食事が出来難いですが、食卓には、季節の花が飾ってあり、季節を楽しみながらの食事となっています。	フルーツやヨーグルトなどを一品増されると、色合いや違った味を楽しめより良くなるのではと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、形態、食事制限などそれぞれに合わせた食事で提供している。 お茶以外の時間にも脱水にならない様、色々な種類の飲み物を提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の利用者には毎食時、行っているがそれ以外の方には声掛け、見守りもできない時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。 PTトイレ使用の方も日中はなるべく共用トイレを使用していただいている。	排泄チェック表を活用し排泄のコントロールをされトイレでの排泄の支援が行われています。ポータブルトイレも日中は使用せず共有トイレで排泄支援を行い排泄コントロールが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い体操を行い、運動への援助を行っている。 水分摂取も促している。 影響については一部理解が浅いと思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は職員が決めてしまっている。なるべく個々の希望やタイミングに合わせ声掛けしているが、施設側の都合になってしまう時もある。 一部希望により毎日シャワーをして頂いている。	曜日は職員が決めているが個々の希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われています。利用者からの希望があれば対応するようにされています。拒否の方はおられず職員の声かけ等でスムーズに入浴されます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせ臨機応変に対応している。自力更衣が難しい方でもパジャマに着替えていただき安眠できる状況を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のファイルに処方薬の効果や副作用容量がわかる様に綴じてある。変化があれば記録に残しているが深くは理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部、家事活動を役割として取り入れている方もいる。裁縫が趣味でミシンで小物を作ったり施設用の雑巾も作ってくださる。他の方に関しては支援はあまりできていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出は受診など以外ではほとんど出来ていない。ご家族の協力が得られる方は外出や外食などされるが地域の方と出掛けるような支援体制は整っていない。	高齢と重度化という事もあり、希望に沿った外出支援が行い難い状況になっています。希望される方については近くのコンビニに出掛けられる。また、家族と他科受診の際に外出し、外食などを楽しまれる方もあります。	地域のボランティアに協力を要請し、県立施設の花の里、歴史博物館等外出も検討されても良いかもしれません。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は3名程度。公衆電話を使用する時に使われる。ダイヤルする援助を行っている。また、ご自分のお金で日用品が足りない時に一緒に買い物に付きう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を使用される時に援助している。手紙のやりとりは行っていない。携帯電話を使い自由にご家族や友人と連絡をとられる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは照明がやや暗かったため、蛍光灯の色を変え、カバーを外し明るくした。毎日テーブルには季節の花を飾ったり、レクで作った季節の作品を展示して、季節を感じる様にしている。	ホールは天井が高く梁見える古民家風で開放的となっています。ホールを明るい雰囲気にするために、蛍光灯の色を変えたり、カバーを外すなどの工夫が行われていました。テーブルには季節の花などが飾れていました。また、レクで作成された季節の作品を展示し四季の季節を感じられる様にされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置で仲の良い利用者同士が話しやすいように考えている。居室やトイレ以外で一人になれる時間はない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や芸能人のポスターを飾ったり使い慣れた物も持ってきて頂いている。一部エアコンが苦手な方は扇風機を持参し使用しておられる。趣味のミシンを置き小物作りもされている。	家族の写真や、お気に入りの靴や小物を持ち込まれています。個々の居室の扉に目印の色用紙や写真を貼り、居室間違いないよう工夫がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の居室戸に目印や写真を貼り、わかりやすくしている。		